

2017年4月吉日

「第6回 JYMA 選抜大学対抗&U25 マッチレース」の報告

JSAF 理事 / キールボート強化委員会 委員長 中澤信夫

今年で第6回目となる上記大会が3月10日(金)～12日(日)に愛知県・西尾市にあるマリーナ東海にて開催されました。大会当日のレース運営及び事前に各地で行われた練習会の開催に関して、キールボート強化委員会より支援、協力を行いましたので以下の通り報告します。

記

1. 日程

10日(金)

受付/体重測定、スキッパーズミーティング、ラウンドロビン、夕食、翌日のスキッパーズミーティング

11日(土)

ラウンドロビン、順位決定戦(6位～9位決定戦、4位対5位決定戦、セミファイナル)、アンパイア・ブリーフィング、翌日のスキッパーズミーティング、パーティー

12日(日)

順位決定戦(セミファイナル、プチファイナル、ファイナル)、アンパイア・ブリーフィング、表彰式

2. 参加チーム

関東同盟、OWL SAIL、WILD MULE/日本大、九州大学、仰秀/東京大学、三遊亭オムライス/同志社大学、しぶき会/広島大学、神戸大学・オフショアセーリング部、KBsailing/神戸大学の全9チームが参加した。

3. 競技艇

マリーナ東海が所有するJ/24を6艇使用し、競技艇のセールはメインセール、ジブセール、スピナーカー各1枚によって構成された。

4. レース運営

- ・ 海上でのレース運営は、JYMA 理事の佐藤麻衣子さんを中心にレースを進行し、各運営ボートに現役マッチレーサー等のレース経験者を配置したことによって公平性が保たれたレースが円滑に実施された。
- ・ 当委員会のメンバーからは 12 名が現地に行き、ボランティアスタッフとしてマーク設置等のレース運営及び広報活動に協力した。
- ・ 初日は強風のため一旦ハーバーバックしたものの、2 日目は終始風に恵まれ、全体的にスムーズにレースをこなすことができた。このため、予定通りにラウンドロビン及び順位決定戦のセミファイナル 1 本目までを 2 日目までに完了し、最終日は余裕をもってレース運営をすることができた。
- ・ 艇体破損や怪我など大きなトラブルはなかった。

5. コース等

コースは風上・風下ソーセージコース（スタート・上・下・上フィニッシュ）で、1 フライトの時間がおおよそ 30 分程度で完了するレグの長さで設定された。

6. 規則

RRS の付則 C を含む規則に準じて行われた。クラスルールは適用されず、帆走指示書にて記載された競技艇取り扱い規則が適用された。

7. レース結果

最終ページに掲載。

8. 選手の参加料

大会参加費は 1 チーム 6 万円（競技艇使用料、艇体保険）であり、別途初日の夕食及び 2 日目パーティー参加費として 1 人 5 0 0 0 円がかかった。ダメージデポジットは 2 万円であった。

参加選手・スタッフの宿泊には、西浦温泉「富士見荘」を格安で利用することができた。

9. 事前練習会の開催

- ・ JYMA からの要請にもとづき、三崎、和歌山、志摩、神戸、広島、博多の各地でキールボートの操船及びマッチレースの基礎に関する練習会が 1-2 月に開催された。
- ・ ボランティアスタッフ及び講師として、大会主旨に賛同する多数のキールボートチームから協力を得て開催された。
- ・ 練習会には多くの大学チームが参加し、本大会のレベルアップ、また社会人セ

ーラーと学生の交流という観点からも非常に有意義であった。

10. その他

〔大会の継続〕

本大会は今年で6回目を迎え、安定的な開催に向けて道筋はできつつあるように感じられた。国内のユース世代の大会として認知度が高まる中で、様々な背景をもつチームが参加し、競技自体の盛り上がりに加えて、セーリングを楽しみ継続するという大会主旨のもと選手同士が交流し、将来のセーリングライフをお互いに議論する機会ともなっている。

一方、懸念点として、今年は出場9チームに留まり、招待枠に余裕があったことが挙げられる。インカレという競技性の高いレースを終えたばかりのディンギーセイラーの間で本大会がいかに浸透し、ユースマッチ全日本チャンピオンシップとしての基盤を築いていくかは今後の課題だろう。

〔SNSの利用〕

大会ホームページ及びSNSでは、大会が近づくにつれて、JYMAや選手自身が大会や自分達の活動についてアピールする姿がよく見られた。また昨年に引き続き、シエスタチームがU-stream放送を行い、レースの様子をリアルタイムでネット配信したことも、大会の盛り上がりを広く知ってもらうことに繋がった。こうした取り組みを通じ、次回大会に向けたスポンサー獲得のPRや、大会への参加希望者を増やしていくことが重要だろう。

〔大会運営と事前練習会の手伝い〕

本大会では、多くの現役セーラーがボランティアとしてレース運営に携わり、複数のメディアが取材協力していた。また、過去の本大会の出身者のOBが運営の手伝いに参加していた。さらに、各水域での練習会でも多くのキールボートチームの協力があったことによって、短期間にも関わらず内容の濃い練習会が行われた。

〔学生の海外レースへのチャレンジ〕

本大会をきっかけとして、チームを結成し、海外マッチレースに挑戦する選手が増えている。昨年の優勝チーム（スキッパー山田選手）も昨年9月にオーストラリアのパーズで行われた、ユニバーシアードのマッチレースに出場した。本大会は、若手選手のセーリングの活動の幅を広げられるきっかけの大会として成功しつつあるので、当委員会としても今後も協力して大会を盛り上げられるように努めていきたい。また、マッチレースのシーン以外にもキールボートのレースでチームに所属して世界選手権で活躍する選手も出ており、本大会がキールボート挑戦の登竜門のひとつとして確立されつつあ

る。

〔優勝チーム（関東同盟）メンバー〕

ヘルムスマン 山口源貴(東京海洋大大学院/1年/芝浦工業柏)
トリマー 山中進太郎(東京海洋大大学院/2年/逗子開成)
ミドル 白石穂高(千葉大大学院/理学/2年/逗子開成)
タクティシャン 松山宏彰(東京大/法学/3年/奈良学園)
バウマン 奈良啓吾(専修大/経済学/4年/函館中部)

以上



選手、運営スタッフ、アンパイア全員集合

※写真はすべてバルクヘッドマガジン平井編集長によるものです。



優勝の関東同盟チーム（左から奈良、山中、白石、松山、山口選手）



レース結果

[STAGE 1] Round Robin

order	ISAF Ranking	Skipper Name	ISAF ID	Team	OWL	KBsail	神戸OS	関東盟	仰秀	WM日大	九州大	広島大	同志社	penalty	pts	place 1-9
1	259	Takahiro Ogura	JPNT022	OWL SAIL	OWL	○	○	○	○	×	○	○	○		7	1
2	1024	Keita Toura	JPNKT34	KBsailing	KBsail	×	×	×	×	×	×	×	○		1	8
3	1066	Kaishu Kyo	JPNKK35	神戸大学オフショアセーリング部	神戸OS	×	○	×	×	○	×	○	○		4	6
4		Motoki Yamaguchi	JPNMY24	関東同盟	関東盟	×	○	○	○	×	×	○	○		5	4
5		Kent Tahara	JPNKT36	仰秀	仰秀	×	○	○	×	×	×	○	○		4	5
6		chundeung chang	KORCC8	WILD MULE (日本大学)	WM日大	○	○	×	○	○	×	×	○		5	3
7		AOI MAKINO	JPNAM6	九州大学	九州大	×	○	○	○	○	○	○	○		7	2
8		hidetaka takaki	JPNHT19	しぶき会 (広島大学)	広島大	×	○	×	×	×	○	×	○		3	7
9		Shunsuke Okamura	JPSO12	三遊亭オムライス (同志社大学)	同志社	×	×	×	×	×	×	×	×			9

[STAGE 2-a] Quarter Final Knock Out

	Quarter Final		Skipper	1	2	3	W/L
4RR	Motoki Yamaguchi JPNMY24	関東同盟	関東盟	○	○		W
5RR	Kent Tahara JPNKT36	仰秀	仰秀	×	×		L

[STAGE 2-b] Consolation Final Round Robin

order	Skipper Name		Skipper	神戸OS	広島大	KBsail	同志社	penalty	pts	place 1-4
6RR	Kaishu Kyo JPNKK35	神戸大学オフショアセーリング部	神戸OS	×	×	○	×		1	3
7RR	hidetaka takaki JPNHT19	しぶき会 (広島大学)	広島大	○	×	○	×		2	2
8RR	Keita Toura JPNKT34	KBsailing	KBsail	×	×	×	×			4
9RR	Shunsuke Okamura JPSO12	三遊亭オムライス (同志社大学)	同志社	○	○	○	○		3	1

[STAGE 3] SemiFinal

	Semi Final A		Skipper	1	2	3	W/L
1RR	Takahiro Ogura JPNT022	OWL SAIL	OWL	○	○		W
3RR	chundeung chang KORCC8	WILD MULE (日本大学)	WM日大	×	×		L
	Semi Final B		Skipper	1	2	3	W/L
2RR	AOI MAKINO JPNAM6	九州大学	九州大	×	○	×	L
WQF	Motoki Yamaguchi JPNMY24	関東同盟	関東盟	○	×	○	W

[STAGE 4] Final / Petit Final

	Petit Final		Skipper	1	W/L		
LSFa	chundeung chang KORCC8	WILD MULE (日本大学)	WM日大	○	W		
LSFb	AOI MAKINO JPNAM6	九州大学	九州大	×	L		
	Final		Skipper	1	2	3	W/L
WSFa	Takahiro Ogura JPNT022	OWL SAIL	OWL	○	×	×	L
WSFb	Motoki Yamaguchi JPNMY24	関東同盟	関東盟	×	○	○	W

[Final Result]

place	skipper	ISAF ID	Team
1st	Motoki Yamaguchi	JPNMY24	関東同盟
2nd	Takahiro Ogura	JPNT022	OWL SAIL
3rd	chundeung chang	KORCC8	WILD MULE (日本大学)
4th	AOI MAKINO	JPNAM6	九州大学
5th	Kent Tahara	JPNKT36	仰秀
6th	Shunsuke Okamura	JPSO12	三遊亭オムライス (同志社大学)
7th	hidetaka takaki	JPNHT19	しぶき会 (広島大学)
8th	Kaishu Kyo	JPNKK35	神戸大学オフショアセーリング部
9th	Keita Toura	JPNKT34	KBsailing

サポーターの皆様

2017/03/20 JYMA

第六回大学&U25マッチ終了のご報告

標記の件、みなさまのご協力のおかげをもちまして、無事かつ成功裏に終了することができました。以下にご報告させていただきます。

大会名：大学&U25マッチレース選手権

日 時：2017年03月10日（金）～12日（土）

場 所：マリーナ東海（愛知県）

使用艇：J／24タイプヨット（6艇）

参加者：9チーム（詳細は、以下の成績をご参照ください）

レースフォーマット：

ステージ1 ラウンドロビン（一度の総当たり）

ステージ2 6位～9位決定ラウンドロビン

ステージ3 4位決定（セミファイナル進出決定戦）

ステージ4 セミファイナル（上位4選手）

ステージ5 プチファイナル（3位決定戦）

ステージ6 グランドファイナル（優勝決定戦）

上記日程がすべて実施された結果、以下の成績となりました。

2017年度第6回大学対抗&U25マッチレース 最終成績：

1. 関東同盟（山口源貴・東京海洋大大学院1年）
2. OWL SAIL（小倉隆寛・立命館大4年）
3. WILD MULE／日本大（玉山千登・4年）
4. 九州大学（牧野碧依・4年）
5. 仰秀／東京大学（田原建人・2年）
6. 三遊亭オムライス／同志社大学（岡村俊祐・4年）
7. しぶき会／広島大学（高木秀隆・4年）
8. 神戸大学・オフショアセーリング部（喬 海舟・2年）
9. KBsailing／神戸大学（東浦啓太・2年）

熱戦の様様：

大会は、初日、二日目ともに、20ノットを超える強風下でのレースになりました。特に初日は、最大30ノットまで吹き上がり、途中でノースピンの指示が出され、その後、レースの進行を止めて、一旦、全艇帰港。風が少し落ちるのを待って、再度出港して、残りのレースを消化することになりました。

練習を積んできた選手には、腕の見せどころであり、練習不足もしくはキールボートに乗り慣れていない選手にとっては、厳しいコンディションだったと推察します。

一転、最終日は微風下でのマッチになりました。ラウンドロビンから決勝まで、選手はあらゆるセーリングの技量を試されたのだと思います。その意味でも、とてもクオリティの高い、良いイベントになりました。



※写真はすべてバルクヘッドマガジン平井編集長によるものです。

今回で第六回目となる当大会ですが、参加選手のレベル向上はもちろん、回りを取り巻くヨット界全体の衆目も集めるようになり、晴れて日本ヨット界の恒例行事として認識されるようになったと思います。

今回は、参加チームが9にとどまり、前年よりも少なかったのですが、その分、選手の技量は高かったと評価しています。選手の声聞いてみても、練習量が例年に増して多かったようで、大会に臨む意欲が、より強くなっているのだと感じました。実際に、初日のレースから接戦が多く、選手たちの熱い思いが、見る側にもしっかりと伝わってきました。

当大会が、本来の目的のひとつ『これから大学を卒業し、社会人になっていく若人たちが、引き続きセーリングを続けていく』土壌として機能していることも実感します。

なお、当大会は、来年も同時期に開催する予定で、すでに水面下で準備を進めています。ご協賛社のみなさまには、来年以降も、引き続き、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

平成29年3月14日
日本ヨットマッチレース協会
会長 大野稔久
副会長 伊藝徳雄
田中正昭